

# 平山郁夫略年譜

西暦	和暦	年齢	事績
			※文化財保護活動を中心としたが、紙幅の都合で海外流出日本古美術品の修復などについての活動は割愛している。
1930	昭和5		6月15日 広島県豊田郡瀬戸田町（現・尾道市）に生まれる。
1945	昭和20	15	8月6日 広島市の修道中学3年在学時、学徒動労動員先で原爆に被爆。
1952	昭和27	21	3月 旧制東京美術学校最後の卒業生として日本画科を卒業。 4月 東京藝術大学副手に就任。1995年学長で退官するまで同大学に奉職。
1959	昭和34	29	9月 第44回院展に《仏教伝来》が入選。自身、「画家としての本当のスタート」という転機となった。
1962	昭和37	32	10月 第1回ユネスコ・フェロシップによりヨーロッパへ留学。
1964	昭和39	34	6月 日本美術院同人に推挙される。
1966	昭和41	36	6～10月 東京藝大第一次中世オリエント遺跡学術調査団に参加、トルコ・カッパドキアの洞窟修道院の壁画を模写。
1967	昭和42	37	3月～ 約1年間、法隆寺金堂壁画再現事業に携わり、第3号壁を担当。
1968	昭和43	38	7月 アフガニスタン、ソ連邦ウズベク共和国を取材、本格的シルクロード取材の端緒となった。
1973	昭和48	43	6月 アレキサンダー大王東征路の考古学的調査団（団長＝江上波夫）に参加。 8月 東京藝大イタリア初期ネッサンス壁画学術調査団に参加、アッシジのサン・フランチェスコ寺院で壁画を模写。 文化庁から高松塚古墳壁画の現状模写を委嘱され、模写班の責任者として翌年3月まで従事。
1975	昭和50	45	6月 日本美術家代表団の一員として、初めて中国を訪問。
1979	昭和54	49	9月 初めて敦煌の莫高窟を見学。
1980	昭和55	50	3月 ボロボドゥール仏教芸術視察団に参加。インドネシア訪問。 5月13日 薬師寺玄奘三蔵院壁画絵始めと平山郁夫絵所開きの式が執行される。
1982	昭和57	52	3月 東京藝大日本画科大学院生の中国古美術研修旅行に同行、故宮博物院、雲崗石窟、龍門石窟などを見学。 9月 東京藝大敦煌学術調査団の予備調査のため中国を訪問。 同調査団は、平山郁夫を団長に、翌83年、85年、87年と三回敦煌で調査を実施した。
1988	昭和63	58	6月2日 文化財保護振興財団が発足、理事に就任。 12月 ユネスコ親善大使に任命される。
1989	平成元	59	3月 古代オリエント博物館で、敦煌遺跡保存協力展〈平山郁夫とシルクロード〉開催。 21日 東京藝術大学第6代学長に就任。（1995年12月まで。2001～05年には第8代学長として再任）
1991	平成3	61	4月 アンコール遺跡救済委員会の第1回アンコール遺跡調査団の団長としてカンボジアを訪問。
1992	平成4	62	9月 約2週間、アメリカ、フランス、ドイツ、イギリスの主要な美術館を歴訪、館長らと保存修復について会談。
1993	平成5	63	8月 〈アンコール遺跡救済展—平山郁夫のメッセージ〉開催。（終了後、国内16会場、パリ、ブノンペン、スイスを巡回） 11月 文化功労者として顕彰される。
1994	平成6	64	5月 〈世界文化財赤十字寄金募集平山郁夫シルクロード展〉開催。（終了後、23会場を巡回） 7月1日 文化財保護振興財団理事長に就任。 8月21日 「敦煌石窟文物保護研究陳列センター」開所式と平山郁夫敦煌研究基金献金顕彰碑除幕式に出席。 11月21日 アンコール遺跡修復事業現地開始式に出席。
1995	平成7	65	1月22日 ダボス会議でクリスタル賞を受賞、世界文化財赤十字構想について講演。 5月24日 南京城壁保存修復協力事業開始式に日本委員会代表団総団長として参列。 9月 ユネスコ特別顧問に就任。
1996	平成8	66	2月 〈世界の文化遺産を描く—平山郁夫展〉開催。（終了後、国内各地を巡回） 4月1日 日本美術院理事長に就任。 11日 国立京都国際会館で開催されたユネスコ世界遺産国際シンポジウムで基調講演。
1997	平成9	67	4月6日 故郷の広島県豊田郡瀬戸田町に「平山郁夫美術館」が開館。 10月 高句麗古墳壁画学術調査団団長として朝鮮民主主義人民共和国を訪問。以後世界遺産登録に尽力する。 11月 ユネスコから、世界文化遺産保護に関する貢献に対して金メダル表彰を受ける。
1998	平成10	68	1月 〈平山郁夫のメッセージ展—バーミヤンの大石仏を守ろう—〉開催。 9月 ウズベキスタンで開催された「中央アジア遺産保存協力政府ミッション」に特別顧問として参加。 ニューヨークで開催された世界銀行・ユネスコ共催世界銀行国際会議「文化遺産と持続可能な開発」で講演。 11月3日 文化勲章を受章。
1999	平成11	69	4月 日本人として初めて米スミソニアン協会からジェームズ・スミソン賞を受賞。 11月 フランス学士院の碑文・文芸アカデミー外国人会員に選ばれ、パリの同学士院で認定式が行われる。
2000	平成12	70	4月 山梨県長坂町に、約30年間にわたって夫人とともに収集したシルクロードゆかりの美術品、工芸品を展示する。 「ハチヶ岳シルクロードミュージアム」（平山郁夫シルクロード美術館の前身）が開館。 7月 東京藝術大学大学美術館で〈平山郁夫コレクション ガンダーラとシルクロードの美術〉展開催。 12月31日 薬師寺玄奘三蔵院《大唐西域壁画》が完成、奉納される。
2001	平成13	71	3月 タリバーンによるバーミヤン大石仏破壊について、抗議のアピールを行う。 8月31日 フィリピンのマグサイサイ賞（マグサイサイ財団、国際理解部門）を受賞。マニラでの授賞式に出席。 10月 国際文化交流に貢献した個人や団体に贈られる国際交流基金賞を受賞。
2002	平成14	72	1月20日 来日中の国連のプラヒミ・アフガニスタン担当事務総長特別代表と会談。 個人的に所蔵するアフガニスタンの文化財や古美術品をカーブル博物館の復興に役立てたい、と申し出る。 5月 アフガニスタンのカーブルで開催されたユネスコ主催の国際会議に出席、バーミヤンの石仏などの仏教遺跡については復元せずに、いわば「負の遺産」としてそのままの姿で保存すべきだと提言。 8月 アフガニスタンを再訪、バーミヤン遺跡の調査に同行する。10日、カーブルでカルザイ大統領と会見。
2003	平成15	73	8月 〈流出文化財を守れ—アフガニスタンそしてイラク〉展開催。翌年に向け、全国7会場を巡回。
2004	平成16	74	1月 画家としての長年の業績と、文化遺産保存への国際的貢献が評価され、朝日賞（朝日新聞文化財団）を受賞。 7月1日 登録に尽力した高句麗古墳群がユネスコ世界遺産に登録される。 18日 山梨県長坂町に、平山郁夫シルクロード美術館が開館。 4月1日 東京国立博物館特任館長に就任。
2007	平成19	77	7月12日 山梨県北杜市の平山郁夫シルクロード美術館の新館が開館。
2009	平成21	79	9月 第94回院展に最後の出品画となった《文明の十字路を往く—アナトリア高原 カッパドキアトルコ—》を出品。 出品後は体調を考慮し、療養中心の生活となるが、病室で制作を続けた。 12月2日 東京都内の病院で脳梗塞のため永眠。生前の功績に対し、従三位が追贈された。